

生物多様性の保全

生物多様性のもたらすさまざまな便益(生態系サービス)は、企業においても原材料・エネルギーなどの形で事業を成立させるための不可欠な要素です。また、緑豊かで快適な自然環境は住まい手の生活の質を高めてくれます。生物資源に対する依存度の高い住宅事業の特性から、自然資本や生態系サービスは成熟や回復に長い時間を要することを直視し、サプライヤーも巻き込んだ実践的なシナリオを描いて長期的な視点で事業に組み込んでいます。

背景

住宅産業は、大量の「自然資本」を利用する半面、本業を通じて自然環境や快適さに直接の影響力を発揮できる業種

住宅産業は、住宅建築に大量の木材資源を使用するだけでなく、庭や街路の緑化、開発などで地域の自然に直接影響を与えます。同時に、きれいに手入れされ成熟した緑は、住宅の価値を高めて住まい手に満足感を与え「まちの財産」ともなります。

生態系の破壊により世界規模で生物資源の減少が進行する中で、年間30万m³を超える木材を用い、お客様の外構緑化で年間約100万本を植栽する、わが国最大級の造園業者でもある当社にとって、生物資源の利用は「ヒト・

モノ・カネ・情報」同様、経営を支える重要な「自然資本」です。従って、これを定量的に評価して長期的な事業継続を図り、お客様の満足度向上と自然の回復力への寄与の両立を進めることが必要です。その一環として「調達」を自然資本の戦略的活用の軸に位置付けて、原材料調達にかかわるサプライヤーとの良好な信頼関係構築を進め、生活者への新たな価値提案でこれを支えることが、長期的に企業の将来価値や業績を左右するととらえています(下図)。

目指す姿

生態系に配慮された住宅で暮らす快適さをお客様に実感いただき、それを支える調達のメリットをサプライヤーと共有する

到達点を共有するところからスタート

当社では、持続可能な社会を実現するために、経営において重視する「4つの価値」と「13の指針」(2006年制定)の中で、目指すべき姿について次の通り示して取り組んでいます。

資源 自然生態系の再生能力を超えない資源の利用

生態系 自然の循環と多様性が守られるよう配慮する

企業価値創造要素と「調達」の位置付け

製品製造やサービス提供に利用できる製造設備やインフラ

製造資本
(モノ)

知的資本
(情報)

人的資本
(ヒト)

財務資本
(カネ)

特許やノウハウなど知識ベースの無形資産

社員の能力や経験、イノベーションの意欲など

株主様投資家様からの資金、金融機関からの融資

空気、水、土地、森林、鉱物、生物多様性など

自然資本
(環境)

調達

社会・関係資本
(ステークホルダー)

利害関係者との良好な関係や信頼

活動方針

競争力の源泉は優良な原材料に由来。サプライヤーとの信頼関係を高め、生活者の快適さ向上を支える自然資本の安定的な調達を確保すると同時に、この事業過程と成果を通じて自然環境の保全を進め、スパイラルアップを図ることを重視

重要なステークホルダー

- 生活者・サプライヤー・環境NGO

取り組みの体制

- 木質建材の主要なサプライヤー 約60社…資材部等を通じた情報共有(「方針説明会」の実施や評価・教育)
- 庭木の植栽に使う樹木の生産者・造園業者約50社…全国の業者とのネットワーク

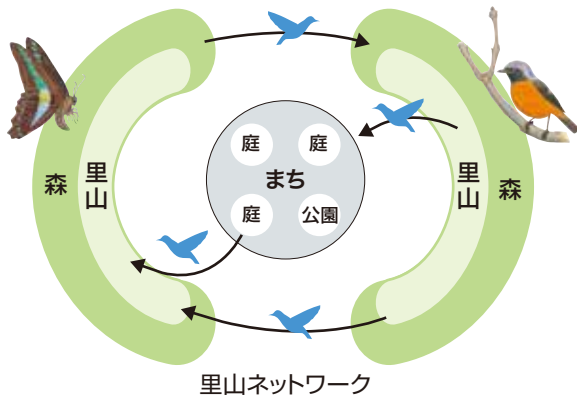
取り組みの概要

「5本の樹」計画

～生態系に配慮した樹種を用いた緑化事業～

造園緑化において植栽する植物について、園芸種・外来種のみを多用するのではなく、生態系に配慮し、地域の生き物にとって活用可能性の高い「自生種・在来種」の樹種を積極的に提案する「5本の樹」計画と名付けた造園緑化事業を2001年から推進してきました。

実施に際しては、地域の植木生産者・造園業者のネットワークと連携し、それまで市場での流通が少なかった自生種・在来種の樹種の生産を依頼。安定的な供給体制を確保するとともに生活者に対して生き物と共生した暮らしの楽しさや意味を提案しています。



「5本の樹」計画を反映した庭や街路が増えることで、生き物とつながって暮らす楽しさが実感でき、都心の小さな庭や空間がつながってネットワークを生み出し、生態系のネットワークの重要な一部が形づくられます。

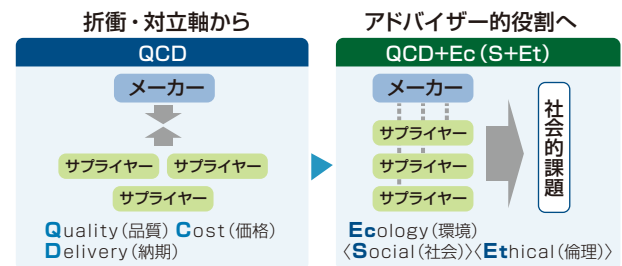
「木材調達ガイドライン」の運用

～持続可能な木材利用の推進～

当社が住宅建築に用いる木質建材に関して、絶滅危惧種でないか、貴重な生態系が形成されている地域からの木材でないかなど、生物多様性等に配慮した持続可能性の高い「フェアウッド(公正な木材)」の調達を2006年から進めてきました。

取り組みは、当社に対して木質建材を納入している主要なサプライヤーを集めて、その必要性の学習会を始めることからスタート。「持続可能な木材」とはどのようなものかを検討し、国際環境NGO FoE Japanの協力を得て10の指針からなる独自の「木材調達ガイドライン」を策定。配点基準に従って、サプライヤーから当社に納入された木材を数値評価し、改善に向けたPDCAを回しています。

調達プロセスを通じて、サプライヤーと信頼関係を強め、共に成長することが企業価値を高めると位置付けています。



企業調達においてメーカーがサプライヤーに対して一方的にQuality・Cost・Deliveryのみを求めるだけでは本物の協力関係は生まれません。

当社は、メーカーの役割は変化しなくてはならないという姿勢のもと、生物多様性をはじめとする社会的課題について、両者が認識を共有し、事業を通じて、その課題の解決に向かうことが重要だと考え、改善の取り組みを進めています。

リスクマネジメント

木材調達

リスク.1

国際的な木材取引の規制強化の流れの中で、伐採・輸出・流通が制約されて、自社で安定的に木材の調達ができなくなる恐れ

対応.1

伐採地の規制動向等の最新情報は現地環境NGOが捕捉していることが多いため、国際環境NGOとのネットワークで把握し、早期に木質建材サプライヤーと共有することで当社に対する優先的な木材の供給体制の見直しを準備してもらうことができます。

「5本の樹」計画

リスク.2

「5本の樹」計画コンセプト普及の下で、他社が同様の提案を行うことで当社の提案の価値が相対的に低下する恐れ

対応.2

植木生産者ネットワークとの長年の連携を生かして市場ニーズに沿った樹種の提案を積極的に進めるとともに、設計の提案力アップ研修や施工体制の強化によって、より満足度の高いトータルなエクステリアデザインで差異化を図ります。

期待できる効果

「木材調達ガイドライン」の運用

EU木材規制、米国レーシー法等、木材のトレーサビリティが強化されても、他社に先行して、各サプライヤーの状況まで把握しながら対応を進めておくことで、既存サプライヤーとの優先的な調達確保ができるとともに、新規採用の際のルール構築も容易となる。

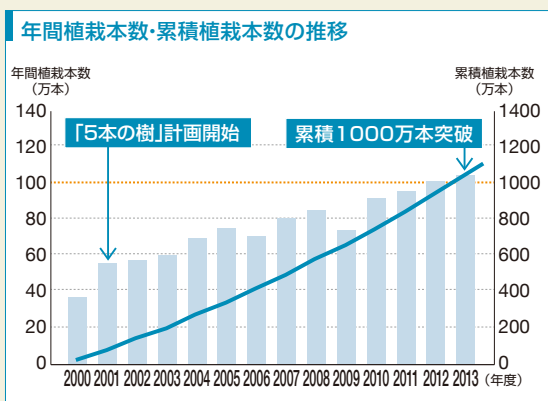
「5本の樹」計画のもたらす価値の拡大

当社が2012年から進めるブランドビジョン「SLOW & SMART」の下で、大開口サッシからの緑豊かな庭の景色を取り込んだ快適な暮らしを「スローリビング」と位置付けているところ、「5本の樹」計画をその要素として積極的に発信することで、建物の差異化、居住価値のアップにも役立てられる。

活動の実践

取り組み効果を報告

1 「5本の樹」計画



「5本の樹」計画に基づいて当社が植栽した樹木は2013年度に年間約106万本となり、2001年の取り組み開始からの植栽本数は累積で1000万本を超えました。

分譲地での植栽ルール化やマンションでの緑被率目標の設定などを進めてきた結果、緑化植栽を含む当社の造園事業の売り上げも、これに伴って年間500億円規模となっています。わが国最大級の造園業者として、この取り組みを推進することで、今後も生き物と共存する庭の楽しさを多くのお客様に提案していきます。

2 木材調達

「木材調達ガイドライン」10の指針 (2012年度改定)

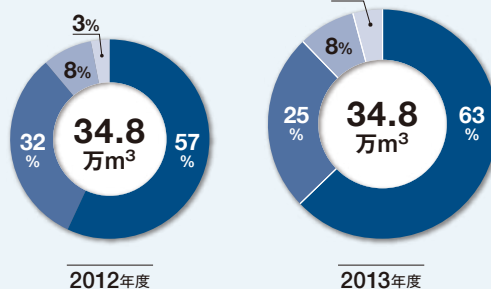
- 違法伐採の可能性が低い地域から産出された木材
- 貴重な生態系が形成されている地域以外から産出された木材
- 地域の生態系を大きく破壊する、天然林の大伐採が行われている地域以外から産出された木材
- 絶滅が危惧されている樹種以外の木材
- 生産・加工・輸送工程におけるCO₂排出削減に配慮した木材
- 森林伐採に関する地域住民等との対立や不当な労働慣行を排除し、地域社会の安定に寄与する木材
- 森林の回復速度を超えない計画的な伐採が行われている地域から産出された木材
- 計画的な森林経営に取り組み生態系保全に寄与する国産木材
- 自然生態系の保全や創出につながるような方法により植林された木材
- 資源循環に貢献する木質建材

指針の合計点で調達ランクを決定

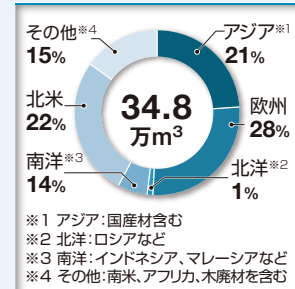
合計点 (最大43点)	調達ランク
34点以上S
26点以上、34点未満A
17点以上、26点未満B
17点未満C

各調達指針の合計点で評価対象の木材調達レベルを高いものから順にS、A、B、Cの四つに分類。10の指針の中で特に重視している114に関しては、ボーダーラインを設定。

取り組みの推移



伐採地域別割合



※1 アジア: 国産材含む
 ※2 北洋: ロシアなど
 ※3 南洋: インドネシア、マレーシアなど
 ※4 その他: 南米、アフリカ、木炭材を含む

今後の課題

CSVとしての「造園緑化」提案強化の必要性

2001年に当社が「5本の樹」計画を発表し、生物多様性について配慮した造園緑化の提案を行った時期には、市場には自生種・在来種はほとんど流通しておらず、こうした樹種は山野から採取してることが一般的でした。しかし、当社のサプライヤーを中心とした各地の植木生産者、造園業者が生産を始めたこともあり、日本人の美意識にも沿った「雑木の庭」に対する市場の評価は次第に膨らみ、近年、住宅だけでなく都市部の商業施設などでも日本の在来種の活用は広がりつつあります。こうした提案が受け入れられて植栽本数累積1000万本を達成できました。

しかし、こうした都会の緑が人の暮らしにどのよ

～生活者、住まい手にとっての価値提案の充実～

うな安らぎを与えるのか、庭の緑化がどれだけ建物の価値を高められるのか、その楽しさや魅力を生活者にどう伝えていくのか等、お客様にとって生き物と共存する庭の「価値」はまだ十分に伝えきれていないと思われます。

当社では、自然と触れ合いながら、ゆったりとした時間を取り戻す「スローリビング」の考え方を住まい手にとっての大きな価値として提案しています。

「5本の樹」計画をベースに、自然の恵みを住まいの心地よさに変えていくことで、自然とつながる暮らしを実現していくためのさまざまな提案を進めていきます。

課題に対する現在の取り組み

スマートフォンやタブレットなどを使って、庭の魅力や楽しさを実感していただくためのAR(拡張現実)等の導入

住宅建築を検討する段階でも「5本の樹」計画の庭の楽しさを理解していただき、緑化に関心を持っていただくために「庭木セレクトブック」などで、楽しさを提案しています。

※下記ショートムービーでも一部をご覧いただけます。



【ショートムービーの楽しみ方】

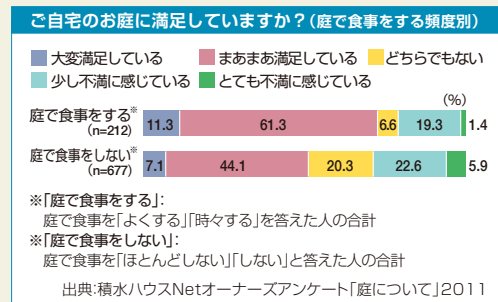
- ①スマートフォンアプリ「junaio」を、App Store (iPhone・iPadの方)、または、Google playストア (Androidの方)で、ダウンロードしてください(無料)。
- ②スマートフォンアプリ「junaio」を起動して、カメラマークの付いた写真にかざしてください。読み込み完了後、ショートムービーを楽しむことができます。

※アプリ利用の際の通信料はお客様負担となります。一部対応できない機種があります。

庭の楽しさを伝えるためのライフスタイル提案

庭のデザインや利用に対するヒアリングや調査を進め、これに対して庭を利用するための設計や提案を強化しています。

例えば、庭で食事をする人ほど庭に対する満足度が高いが、道路や近隣からの視線、配膳の手間などが課題でした。そこで、開放感とプライバシーを両立し、室内との行き来が容易な「インナーコート」などの提案を行っています。



リビング・ダイニングとつながる「インナーコート」